

授業概要

本講義では、胎児期から乳幼児期に至る発達について、成育歴、身体・運動、感覚知覚・認知機能の発達、感情、対人関係、自己、言語発達などについて講義し、個人の発達や適応について理解できるように指導する。とくに、乳幼児を取り巻く環境や親子関係・子ども同士の関係のあり方と心理的発達について、従来の発達理論をふまえて講義する。必要に応じて、行動観察、ロールプレイ、グループディスカッション等、演習課題を取り入れ、多様な対象の理解や彼らを取り巻く人的環境・物的環境との関連を理解できるように進める。乳幼児期の発達や適応に関する十分な知識を身につけ、対象への理解や支援に活用できる力を養う。

授業計画

第 1 回	乳幼児の心理学・・・乳幼児期の特徴、発達の原理
第 2 回	胎児期の発達・・・胎児期～誕生まで
第 3 回	からだと運動・・・からだ、脳、神経の発達
第 4 回	知覚・・・知覚機能の発達、知覚特性
第 5 回	認知と思考・・・思考の発達、記憶の発達
第 6 回	感情と欲求・・・感情の発達、欲求と動機付け
第 7 回	ことばのコミュニケーション・・・ことばの発達過程、コミュニケーション
第 8 回	人間関係・・・愛着、さまざまな人間関係
第 9 回	遊び・・・遊びの発達、遊びの発達における大人の役割
第 10 回	自己・・・自己意識、気質と個人差
第 11 回	社会性と道徳・・・社会的行動の発達、道徳性の発達
第 12 回	父親と母親・・・父親、母親の子育て、子育て支援
第 13 回	現代社会とメディア・・・乳幼児とメディア、養育者の関わり
第 14 回	発達をつまずき・・・発達障害、ことばの問題、適応問題
第 15 回	まとめ
第 16 回	学期末試験（レポート）

到達目標

- ①胎児期から乳幼児期に至る発達に関する基本的な知識（感覚知覚、運動、言語と思考、認知、情緒、欲求、対人関係、自己など）に基づき、個人の発達や適応に関する理解を深め、支援に活用する力を身につける。
- ②乳幼児自身と彼らに関わる様々な人々（家族や保育者、援助者など）及び彼らが抱える困難を理解し、関わりや援助の方法について理解できる。

履修上の注意

- ・受講にあたっては、「心理学概論Ⅰ」ならびに「心理学概論Ⅱ」を受講済みであること。
- ・初回の授業時に、受講のポイントを伝えるので、初回授業には必ず出席してください。
- ・授業内で行う演習課題は、授業終了時に提出すること。
- ・授業の1/3以上の出席で単位認定を行う。遅刻3回は欠席1回にカウントする。
- ・本科目は子ども発達学科開講の「幼児心理学」とは別科目であるため、資格・免許取得のための選択必修科目とみなすことはできません。

予習・復習

- 【予習】授業計画をふまえ、乳幼児期の発達とその支援に関する関心と問題意識をもって授業に臨むこと。次回の授業内容について、他の授業科目と関連づけた「キーワード」を考えておくこと。
- 【復習】地域に生活する乳幼児及びその家族と関わる機会を積極的に求め、乳幼児の発達および適応を支援する実践につながられるよう努力すること。

評価方法

授業への参加態度（20%）。授業内で提出を求める小論文（レポート）（30%）。学期末試験（50%）に基づいて評価を行う。

テキスト

- ・教科書名：「たのしく学べる 乳幼児のこころと発達」
- ・著者名：櫻井茂男・大内晶子編
- ・出版社名：福村出版
- ・出版年（ISBN）：978-4-571-23063-9